

在ポルトアレグレ領事事務所 推薦叙勲受章者

〈邦人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
鈴木 貞男	85歳	リオ・グランデ・ド・スール州 イボチ市	旭日双光章	日本

(主要経歴)
元 南日伯援護協会会長

(主な功績)
鈴木貞男氏は昭和36年、建設省所管の南米産業開発青年隊第7期生として21歳でブラジルに渡航。パラナ州での研修を経てリオ・グランデ・ド・スール州に移り、大農法に挑戦するも天候や資金難により断念。その後、サンタマリアで蔬菜栽培により独立した。
昭和40年、日本から花嫁移民としてブラジルに渡航してきた静枝氏と結婚し、夫婦で力を合わせて単独経営を続けたが、借地農や子弟の教育問題から果樹栽培を目的としたイボチ移住地への第2次入植を決意。試練の中、他の移住者と協力し、巨峰等のブドウ栽培を成功させ、同地を全国規模の繁栄へと導いた。また、農畜産協同組合を結成し、組合員の生活向上と地域の発展に寄与した。
昭和57年にはイボチ移住地日本人会が福祉法人イボチ日伯文化体育協会に発展し、州内最大規模の移住地となった。同協会はJICAの協力を得て、日本語教育や文化交流を推進。平成22年にはイボチ市の支援で「イボチ日本人移住資料館」を開設し、地域社会との融合を進めた。
更に鈴木氏は、平成12年から副会長を3期6年、平成18年からは会長を3期6年務め、ブラジル南部の日系団体の要である同協会幹部として、活発に活動を主導し、日系移民の社会福祉の向上と促進に大きく貢献した。



〈外国人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
アルレッチ・シューマン	61歳	リオ・グランデ・ド・スール州 ポルトアレグレ市	瑞宝双光章	ブラジル

(主要経歴)
元 在ポルトアレグレ領事事務所現地職員

(主な功績)
アルレッチ・シューマン氏は、平成2年2月、在ポルトアレグレ日本国総領事館に現地職員として採用され、令和2年12月までの約31年間、秘書業務や広報文化関連業務に携わり、日伯文化交流や友好関係の促進に大きく貢献した。また、経験を活かして他の職員を指導し、事務所運営を支えた。
平成20年の日本人ブラジル移住百周年においては、数々の文化イベントを成功に導いた。更に、平成24年にはリオ・グランデ・ド・スール州ガリバルジ市で初の日本文化祭を開催、イベントの遂行にあたり中心的な役割を担った。平成27年には日本ブラジル外交関係樹立120周年の当地における記念行事の企画・調整等の準備において中心的役割を果たした。
明朗快活で、フレンドリーな性格も相まって、親しみ易い領事事務所とのイメージ向上にも寄与し、平成22年には「在外公館現地職員永年勤務者表彰(20年表彰)」を受賞した。退職時には州政府、市政府、日系団体から感謝と惜別の声が寄せられ、日伯友好への功績が広く評価されている。

